

グループ討議で、参加いただいた方々から多くの意見・感想・質問をいただきました。
ご質問については、次のように玄海町、NUMO、経済産業省から回答しました。



文献調査について

質問) 文献調査はどの程度まで進んでいるのか。海まで調査するのか。

回答) 調査対象に海域も含まれます。文献調査は、地質図や研究論文などの文献・データを収集し、活断層や火山などの情報の読み解きや評価をしたうえで報告書を作成します。全体として2年程度は必要と考えています。現在、文献・データの収集のうち主なものは概ね完了しています。(NUMO)

質問) なぜ、他の自治体は手を挙げないのか。

回答) 全国の自治体を訪問、説明した中では、処分場の必要性は理解していただいておりますが、“自分の所となると難しい”とのご回答が多い状況です。現時点でも関心を持っている自治体もありますので引き続き地道に理解活動を継続し更に理解が広がるよう進めていきたいと考えています。(経済産業省)

質問) 文献調査の開始について、どの程度町民の意見が反映されているのか。

回答) 請願が議会に提出され、賛成6票、反対3票で採択されました。町長は、議会は町民の代表であり、議会の採択結果に町民意見は反映されているものと判断のうえ、文献調査を受け入れたと認識しています。(玄海町)

地層処分について

質問) 精密調査を通過した地点が複数あった場合は、どうするのか。

回答) 基本的に1箇所を選定します。例として、スウェーデンでは2箇所の最終候補地点において様々な議論が行われ、最終的に1箇所が選定されました。なお、選定されなかった地点は、他の関連施設を誘致するなどの経済的な支援が行われたと聞いています。(経済産業省)

質問) 幌延町に施設を作ることはできないのか。

回答) 幌延町の幌延深地層研究センターは「研究実施区域を放射性廃棄物の最終処分場としない」との内容を含めた協定書を、北海道、幌延町及び研究を行う日本原子力研究開発機構との三者間で締結しております。したがって、放射性廃棄物の最終処分場とする検討は行っておりません。(NUMO)

質問) 地層処分を行っている国は“どうやって”決定したのか。また、本当に安全なのか。

回答) 先進地のフィンランドでは、複数地点で手が挙がり、文献調査・概要調査などから最終的に2箇所になり、最後に国が判断して決定しました。これは、日本と同じプロセスです。安全性については絶対に安全と言うことは困難ですが、放射線を防ぐバリアが、1000年後にその機能が全て失われたと仮定し、地上の人間にどのくらいの影響があるかを計算を行うと、自然界の1000分の1程度と十分な安全性は有していると考えています。(NUMO)

質問) 処分場の地上や地下施設の大きさがわからない。

回答) 地上施設は約1~2平方kmであり地方空港と同程度の規模となります(佐賀空港は約1平方km)。地下施設は約6~10平方kmであり、約3km四方になると考えています。(NUMO)

質問) 処分場が建設された場合、地下施設の上において農業、漁業を含め“そのまま”の生活できるのか、買収され移転することになるのか。

回答) 地上施設の敷地は買収することになりますが、地下施設の上に関しては、法律上、保護区域として設定できることとなっています。保護区域の掘削には許可を要することとして、処分場に影響を与えるような不用意な掘削が行われないようにします。具体的な設定範囲及び制限に関しては、処分場建設と併せ、実情に沿った形で検討していくものと考えています。(経済産業省)

質問) 文献調査終了時点で、町長が次に進まない判断した場合、国は認めるのか。

回答) 法律上、都道府県知事・市町村長の意見を尊重することとされています。意見に反して、先に進むことはありません。(経済産業省)

質問) 全国の1箇所となった場合に、工期はどのくらいかかり、施設の利用開始まで何年が必要なのか。

回答) 調査終了後、建設までに10~15年かかる可能性が大きいと想定していますが、現時点において何年とは明確にお示しできません。なお、着工から最初の埋設を開始するまでに5~10年、最終的に全ての埋設を終了するまでには、100年程度の期間を要すると考えています。(NUMO)

質問) 仮に工事が開始された際には、1日当たり何千人の労働者が従事するのか。

回答) 先進地のフィンランド、スウェーデンの見込みでは1日当たり800~1000人程度の労働者が従事するとの話ですが、現時点において回答は控えさせていただきます。(NUMO)

質問) 高レベル放射性廃棄物だけではなく、低レベル放射性廃棄物はどうなるのか。

回答) 高レベル放射性廃棄物が大部分ですが、一部、TRU廃棄物という非常に半減時が長い低レベル廃棄物も地層処分することを考えています。(NUMO)

その他

質問) 風評被害が発生しないようにしてほしい。

回答) 他の地点の北海道寿都町、神恵内村では、風評被害は発生していません。深刻な風評被害が発生する場合には、国としてもNUMOとともに正しい情報の発信に努めていく所存です。(経済産業省)



「対話を行う場」で回答できなかったご質問

質問) 地震などの災害が発生している所が緑なのが不思議。

回答) 科学的特性マップでは、地層処分に著しい影響を与える、火山(マグマの噴出など)や活断層(断層活動による処分場の破壊など)などの影響が考えられる範囲を「好ましくない範囲」としてオレンジ色で示しています。地震による“ゆれ”については、著しい影響を及ぼすとまではいえないため「好ましくない範囲」とはしておりません。

質問) 使用済MOX燃料は資源ですか。廃棄物ですか。

回答) 使用済MOX燃料は、資源の有効利用の観点から再処理するための研究開発が進められており、国のエネルギー基本計画では、2030年代後半を目途に再処理技術の確立に取り組むとされています。

質問) 廃棄物を貯蔵する能力は六ヶ所村にどのくらいあるのか。

回答) 日本原燃㈱の「高レベル放射性廃棄物貯蔵センター」におけるガラス固化体貯蔵能力は2,880本です。また、同社の「再処理工場」で今後発生するガラス固化体については、約8,000本分の貯蔵建屋を建設中です。